

全国肉用牛枝肉共励会で最優秀賞

最優秀賞を受賞した堀坂社長④と野呂知事⑤、片岡組合長



三重・津市の堀坂牧場が知事らに報告

【三重】津市にある堀坂牧場が飼育した松阪牛「さちひさ号」が2010年度全国肉用牛枝肉共励会の和牛牝牛の部で最優秀賞を受賞したことを

受け、(株)堀坂の堀坂剛社長(34)とJA三重中央の片岡眞郁組合長らが1日、三重県の野呂昭彦知事とJA三重中央会の田中利宣会長を訪ね、受賞

を報告した。

堀坂社長が受賞報告を行うと、野呂知事は「大変名誉なこと、おめでとう」と受賞を祝った。また田中会長は「大変素晴らしい。これからも県内の畜産業をけん引してほしい」と激励した。片岡組合長は「高度な飼育技術を多くの人に伝えて、ますますがんばってほしい」と話した。

11月に東京都内で行われた同共励会で、和牛牝牛の部には136頭が出品され、審査員らがロースの多さや霜降りの様子、肉色などを審査した。審査後、総重量469キの枝肉は、京都市の料亭に総額約410万円で落札された。

堀坂牧場は約800頭の黒毛和牛を飼育。堀坂社長は「農家のやる気次第で良いものができる。これからがんばりたい」と述べた。

松阪牛 全国一



松阪牛の肥育から販売までを手がける「堀坂」＝津市白山町＝の堀坂博文会長(58)＝名張市滝之原＝が、東京食肉市場協会などが主催する全国肉用牛枝肉共励会の「和牛牝牛の部」で最優秀賞を獲得した。松阪牛が全国一になったのは、1935年以来75年ぶりだといい、喜びもひとしおだ。
(上野満男)

「牝牛の部」最優秀賞

津の「堀坂」75年ぶり栄冠に喜び

10月下旬に東京都港区の中央卸売市場食肉市場で開かれた同共励会に、堀坂さんが出品したのは、生後33カ月の「さちひさ」。但馬系統の鹿児島県の種雄牛「安福久」の子で、母の父は92年の第6回全国和牛能力共進会(大分県)で農林水産大臣賞を獲得した「平茂勝」(鹿児島県)という良血統。生後8、9カ月のころに買い付け、長男の剛社長(34)らが牧場で肥育してきた。

「和牛牝牛の部」には全国から130頭が出品された。「さちひさ」は、市場到着時の体重が702キログラムで、出品資格の「520キログラム以上、750キログラム以下」の条件を満たすと、枝肉審査でもロース芯面積90平方センチ、「ばら」の厚さ9.4センチなどの数値が出て、最高の評価を受けた。

堀坂さん親子は「体重が重くなったため、餌の内容を変えてダイエットした時期もありました。枝肉市場の日本一決定戦で松阪牛の実力を証明できて、よかった」と喜んでいた。

所
カップと賞状を手に、最優秀賞獲得を喜ぶ堀坂博文さん・剛さん親子＝名張市役

肉牛日本一に松阪牛

名張・堀坂さん親子育てる

肉牛の肉質を競う国内最大規模の審査会「全国肉用牛枝肉共励会」（東京食肉市場協会など主催）で、名張市滝之原の堀坂博文さん（58）と、長男で松阪市嬉野中川新町の剛さん（34）の親子が松阪牛として育てたメスの黒毛和牛が、「和牛牝牛」部門で最優秀賞を受賞した。堀坂さん親子は「松阪牛が日本一と証明できた」と喜んでる。



最優秀賞のカップを掲げる堀坂さん親子（名張市内で）

同共励会は10月27、28日、東京都港区の都中央卸売市場食肉市場で開催。「乳用去勢牛・交雑去勢牛」「和牛去勢牛」「和牛牝牛」の3部門に全国28都道府県から計430頭の出品があり、堀坂さん親子は生後月齢33

か月、重さ702キロ・ポンドの「さちひさ号」を、和牛牝牛部門に出品した。肉の量や質、霜降りの状態などを審査した結果、最上クラスの評価で同部門136頭のトップに。審査後の競りでは、京都市内の高

級料理店が1キロ当たり8816円の高値で落札した。さちひさ号は、堀坂さん親子が約800頭を肥育している津市白山町北家城の牧場で育った。毎日何度も牛の様子を観察。共励会へ出品が決まってからは、特に念入りに手入れし、基準体重をオーバーしないよう体重コントロールにも気を使ったという。

堀坂さんは「消費者に喜ばれる肉を生産できた喜びでいっぱい。さちひさ号に感謝したい」とし、剛さんも「松阪牛が名実ともに日本一であることを証明したい」と思い出品した。願いがかない、うれしい」と話した。

「さちひさ号」最優秀

名張「堀坂」初出品の松阪牛

県産1位は昭和10年以來 和牛牝牛の部



「全国肉用牛枝肉共励会」で最優秀賞を受賞した堀坂博文さん（右）と長男の剛さん。名張市役所で。

かれた牛枝肉の日本一を決める「全国肉用牛枝肉共励会」に、松阪牛「さちひさ号」（三十三カ月）を出品し、「和牛牝牛」の部で最優秀賞を受賞した。

同大会は、社団法人「東京食肉市場協会」の主催。同市場に出荷実績のある二十八都道府県から銘柄牛計四百八十頭が、光沢や色目など肉質の良さを競った。堀坂さんの「さちひさ号」は、生後三十八カ月未満、体重五百二十七百五十キの「第三部、和牛牝牛」に出品。審査員二十七人が計十五項目で審査の結果、出品された百三十頭の中から最上位に選ばれた。

という。剛さんは「さちひさ号」について、「ロースは多く、皮下脂肪は少ないという理想の割合。出品の日まで、体重や健康状態の管理に余念がなかった」と話す。枝肉の総重量は四百六十九キ。百キ単価は八千八百十六円で、京都府の料亭が落札した。

県産牛が最優秀となったのは昭和十年以来で、博文さんは今回が初出品。堀坂さん親子は「『松阪牛』がブランドというだけでなく、名実ともに消費者に喜んでもらえるものだ」と証明できた」と喜んでいる。

（海住）

全国枝肉共励会

【名張】名張市滝之原の食肉生産販売「堀坂」会長の堀坂博文さん（五）は先月二十七日、東京都港区で開

「さちひさ号」は鹿児島県産黒毛和牛。博文さんの長男で「堀坂」社長の剛さん（三）が主に肥育してきた

和牛牝牛で日本一

枝肉共励会

津の「松阪牛の品質」実証 堀坂牧場の

津市白山町北家城の「坂牧場が飼育した雌の
株式会社「堀坂」の堀 黒毛和牛「さちひさ



号」が先月、東京都中
央卸売市場食肉市場で
開かれた本年度全国食
肉用牛枝肉共励会の
「和牛牝牛」の部で最
優秀賞に輝いた。

所有者で同社の堀坂
博文会長（五〇）名張市
滝之原〓と飼育を担
当した長男の堀坂剛
社長（三〇）〓松阪市嬉
野中川〓は「松阪牛の
品質の良さが名実共
に認められた。とても

うれしい」と喜んでい
る。
共励会には、全国二
十八都道府県から、乳
用去勢・交雑去勢、和
牛去勢、和牛牝の三部
門に銘柄牛四百五十頭
の出品があった。

和牛牝の部門は、体
重や飼育期間などの基
準に合った百二十頭が
出品され、生体審査の
後、枝肉の審査があっ
た。ロースの多さや霜
降り肉の様子、肉の色
などの審査を経て最優
秀になった。審査後、
京都市の料亭が一キ当
たり約八千八百円、総
張市役所で

額約四百十萬円で落札
している。（川合正夫）
堀坂牧場は、名張市
にあったが二〇〇三年
に津市へ移転。現在は
黒毛和牛八百頭を飼育
し、年間約四百頭出荷

全国食肉用牛枝肉共励会
で最優秀を獲得した堀坂
博文さん（右）と剛さん（左）
名張市役所で

最優秀賞受賞を報告

全国肉用牛
枝肉共励会

「堀坂」、松阪市長訪問



山中市長（右）に受賞を報告する堀坂さん＝松阪市役所市長応接室で

【松阪】十月に東京食肉市場（東京都港区）で開かれた、全国肉用牛枝肉共励会に松阪牛「さちひさ号」の枝肉を出品し、最優秀賞を受賞した、食肉生産販売「堀坂」（本社津市）の堀坂剛社長（三）は十九日、松阪中川新町には十九日、松阪牛関係団体の長を務める、松阪市の山中光茂市長を訪問。受賞を報告した。

堀坂社長はトロフィーや賞状を前に、「味や霜降りにこだわり、東京市場に枝肉の出荷を続けている。長期肥育は苦勞も多いが、今回は理想通りの肥育ができた」と報告。山中市長は、

「おめでとうございます。これからも頑張ってください」と励ました。

堀坂社長は十二年前から、肥育に携わっており、津市の牧場では約八百頭の松阪牛を育てている。今回は仲買人の薦めで、「和牛牝牛」の部に初出品。全国から同部門に集まった百三十頭分の枝肉のトップに選ばれた。

枝肉共励会で最優秀

堀坂^{さん}（嬉野中川）報告
堀坂^{さん}（新町四丁目）

松阪牛出品し市長に

10月末に東京食肉市場で開かれた全国肉用牛枝肉共励会（東京食肉市場協会主催）の第3部（和牛牝牛）で最優秀賞に選ばれた堀坂牧場（津市白山町北家城）の堀坂剛社長（34）＝松阪市嬉野中川新町四丁目＝が、19日午後1時に山中光茂市長を表敬訪問した。

共励会は第3部のほかに第1部（交雑牛去勢と乳用牛去勢）と第2部（和牛去勢）があり、和牛去勢牛の振興を主眼に、1973（昭和48）年に第1回、83（同58）年に第2回、85（同60）年からは毎年開催されてきた。松阪牛の出品は珍しく、三重県産の最優秀賞は恐らく初めて。

堀坂牧場は十数年前に



名張市から白山へ移転。堀坂さんは前社長の博文さん（58）の長男で、今回の出品牛「さちひさ号」

は博文さんの名で登録したが、堀坂さんが買い付けて育て上げた。「理想的な肥育ができた」と会

市長を表敬訪問した堀坂さんと最優秀賞の盾＝市役所で

心の笑み。山中市長と懇談し、「松阪肉の素晴らしさをアピールし続けた」と抱負を語った。

さちひさ号は鹿児島県生まれの2歳9月。枝肉の総重量は469キログラムで、1キログラム8816円で京都の料亭・三嶋亭に落札された。

松阪牛の枝肉 全国で最優秀



山中市長（手前右）に受賞を報告する堀坂さん

堀坂さん市長から激励

枝肉の日本一を決める「全国肉用牛枝肉共励会」に、津市の自社牧場で肥育した松阪牛の枝肉を出品し、最優秀賞を受賞した肥育農家で精肉販売店経営の堀坂剛さん（34）（松阪市野中川町）が19日、松阪市役所を訪れ、山中光茂市長に受賞を報告した。

堀坂さんは、東京都港区の都中央卸売市場食肉市場で先月末に開かれた共励会で、津市白山町北家城の牧場で育てた月齢33か月、702キの「さちひと号」を、和牛牝牛部門に出品した。

「全国肉用牛枝肉共励会」は、東京の社団法人「東京食肉市場協会」が開催する、肉牛の肉質を競う国内最大規模の審査会。先月末の共励会の「和牛牝牛」部門には130頭が出品された。肉の量や質、霜降りの状態などの審査で、同部門トップになり、競りでは、京

都市内の料理店が1キ当たり8816円で落札した。堀坂さんが、「味や霜降り具合の良さを追求していきたい」などと述べると、

山中市長は「他の肥育農家のやる気が高まるよう、素晴らしい松阪牛の肥育に期待しています」と激励した。

全国最優秀賞を報告

堀坂牧場の
松阪牛枝肉
松阪市長に社長

十月にあった全国肉用牛枝肉共励会で「堀坂牧場」（津市白山町北家城）で肥育した松阪牛が最優秀賞に輝き、同牧場社長の堀坂剛さん（三巴）
鹿兒島生まれの「さちひさ号」を出品。肉質の審査を受け、百三十頭の頂点に輝いた。

堀坂さんは「エサの配合や牛の体調管理に苦心したかいがあった」と報告。山中市長は「松阪牛の素晴らしさを証明していただき、感謝している」と話した。

（石原猛）



中川新町が十九日、松阪市役所を訪れて山中光茂市長に受賞の報告をした。

松阪牛約八百頭を肥育する同牧場は、共励会の和牛雌の部門に、

山中市長に受賞を報告する堀坂さん（右）松阪市役所で